

[長崎市理財部資産経営室からのお知らせです。]

公共施設の将来のあり方を考える市民対話《式見・小江原地区》

❀ 第1回 開催報告 ❀

ご参加いただいた皆さま
ありがとうございました。



日時 令和3年9月25日(土) 18:30~20:30

場所 小江原地区ふれあいセンター 第1研修室

参加者 地域の皆さん 約10人

人口減少や少子高齢化が進む中であっても、暮らしやすいまちであり続けるために、式見・小江原地区にある公共施設はこれからどうあったら良いのか・・・将来に向けた公共施設のあり方を皆さんと一緒に考えていきたいと思い、市民対話を開催しました。

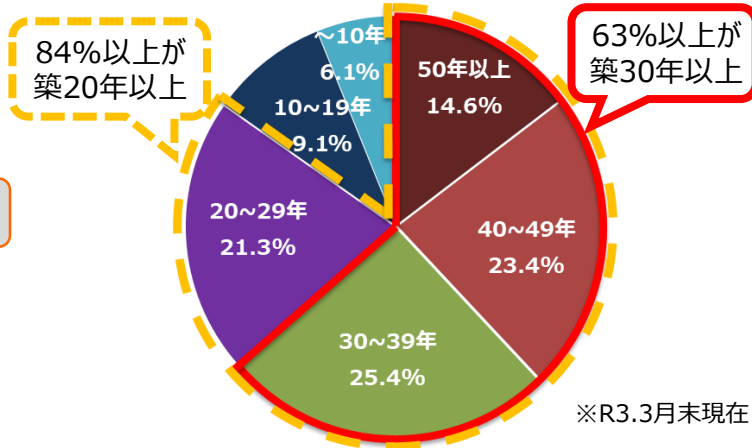
※手指消毒、換気、マスク等の新型コロナウイルス感染対策を行い、開催しました。

1 いま起きている“変化”と状況

公共施設が古くなってきています

- ・市の公共施設（建物）の6割以上が建築後30年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいます。
- ・今後、修理や建替えの時期を一齐に迎えます。

＜施設の築年数と施設の量（床面積）の割合＞



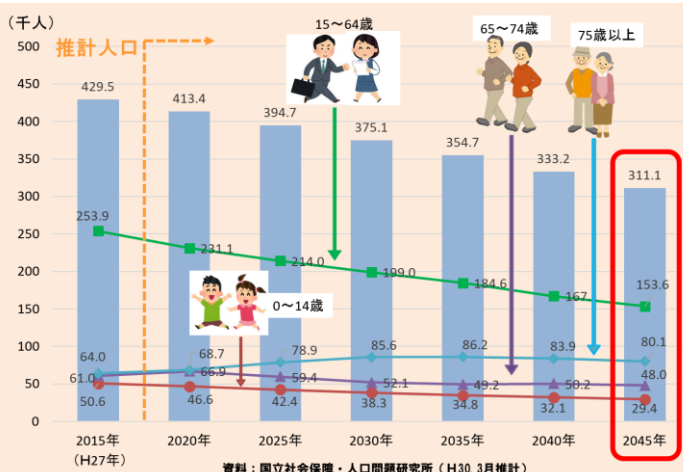
人口減少・少子高齢化が進んでいます

- ・長崎市の人口は、2045年には約31万人にまで減少すると予測され、それに伴い施設の利用者も減少していくことが予想されます。
- ・「働く世代」の人口が大きく減少して**税収が減少することが予想**されます。
- ・今後も高齢化が進み、**福祉や医療にあてる費用が増えることが予想**されます。
- ・このため、**公共施設の修理や建替えにあてる費用は限られてしまいます。**

私たちのまわりで起きている変化



＜人口の将来予想＞



- ・高度成長の時代を経て、私たちの暮らしは豊かになってきました。しかし一方で、近年では人口減少や少子化、高齢化、ひとり暮らし世帯の増加といった問題や大雨による地滑り、台風、津波などの自然災害の増加による、防災に対する意識の変化など、私たちの周りでは様々な変化が起きています。

新型コロナウイルスの流行による変化も

●コロナ禍での変化

- ・コンビニで住民票等の取得
- ・スマートフォンなどを使用した電子納税
- ・テレワークの普及
- ・オンライン会議の活用 etc....

コロナの終息後も、新しい生活様式が当たり前



「新型コロナウイルス」が世界中で流行し、スマートフォンを利用したサービスの提供やテレワーク、オンライン会議の普及、「新しい生活様式」など働き方や生活の新たな常識「ニューノーマル」時代へと変化しています。

2 長崎市の現状

人口減少

公共施設の
利用者の減少

なのに

公共施設の量は
そのまま

少子高齢化

医療・介護など福祉
にあてる予算の増大

なのに

古くなった公共施設の
修理に費用がかかる

3 コロナ禍を契機として

コロナ禍を契機として.....

- ・行政サービスの提供方法の変化
- ・公共施設の在り方を見直す必要性

コロナ禍を契機として、スマートフォンを活用し非接触での行政サービスの提供方法へ変化がみられるようになっており、このような変化のなか、これからも暮らしやすさを維持していくためには、社会のいろいろな「しくみ」を見直していく必要があります。

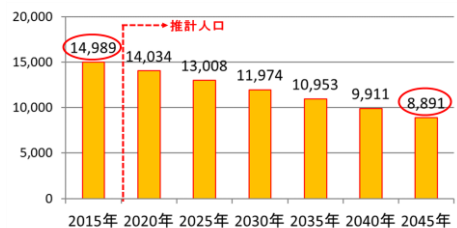
その中の一つとして、公共施設の使い方の見直しに取り組んでいくことも必要と考えます。

4 式見・小江原地区の現状

1 式見・小江原地区の将来推計人口

人口は30年で6割程度に

【式見・小江原地区】



2015年で約1万5千人の人口が、30年後には9千人程度になると予想されています。統計的には、これから式見・小江原地区でも人口減と高齢化が進むと予想されています。

グループでの話し合い

「区内にある施設の課題等」「市の考える施設の基本的な配置に対する意見」について考えよう

- 式見・小江原地区の将来を考えるうえで、区内にある施設の課題などは何ですか。
- 市の考える施設の基本的な配置に対して、どう思いますか。思い浮かんだことを書き出してもらい、班で話し合いました。

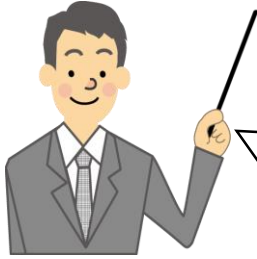


5 公共施設の上手な考え方

また、どのように公共施設を考えていくかについても、お話ししました。

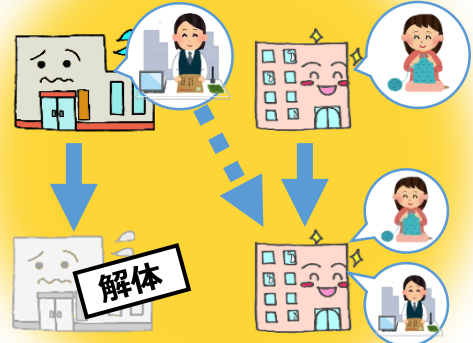
まず大切なことは…

施設を見直すことは、行政サービスを無くすことではありません。



施設の見直しとは、あくまでも施設のあり方や使い方を考えるということです。仮に施設が減っても、そこで行われていた生活に必要なサービスを無くすことではありません。

＜工夫した使い方の例＞



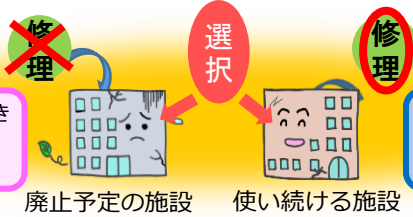
建物は減っても… サービスは残る

考え方

考え方には、大きく2つの手法があります。

考え方1 施設を選ぶ

廃止予定なのに大きな修理をするのは、もったいないね！

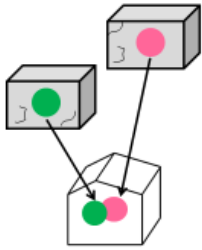


廃止予定の施設 使い続ける施設

安全で安心して利用できる施設管理に努めます

使い続ける施設と将来廃止予定の施設を分けて、使い続ける期間に合わせた適切な修理をします。

考え方2 施設をまとめる



●いっしょに使う●



●時間をやりくり●



●交流が活発に●

建物が減っても工夫することで活動は続けられ、新たな交流生まれます。

公共施設を考える時の視点

次の7つの視点で施設を考えていきます。

建築年数や修理の状況



地震に強い建物か



よく利用されているか



使っていない部屋はないか



同じような使われかたをしている建物がないか



修理などにお金が掛かりすぎていないか



バリアフリーに対応しているか



グループでの話し合いの様子



6 長崎市全体の公共施設の基本的な配置の考え方

コミュニティ活動施設



❁地域の皆さんが身近にふれあい、さまざまな活動を行っていく場所として、気軽に立ち寄ることができる地域コミュニティ活動の場はこれからも必要です。
 ❁今後は、ふれあいセンターや地区公民館などに加え、特定の年齢層を利用対象とした老人憩の家や児童館・児童センターなどの施設も、将来的に、多世代が利用できる施設へ利用方法や機能を見直し、身近な場所で、地域の子どもから高齢者までの多世代が活動する場を維持していきます。



式見地区
ふれあいセンター



手熊地区
ふれあいセンター



小江原地区
ふれあいセンター



老人憩の家
式見荘



老人憩の家
舞岳荘

広域的利用として配置する施設

●中学校区を超えた大規模な催しや講座等に対応できる広いスペースや、ホールなど特定の設備が必要な広域的に利用できる施設は、長崎市の都市計画上の地域拠点または交通の便の良い場所への配置を考えています。



中学校区

小学校区

- 集会室
- 和室
- 給湯室

…等



- 集会室
- 会議室
- 和室
- 調理室
- 事務室兼図書室
- …等

中学校区に配置する施設

●多数の参加が見込まれる活動や行事などのため、小学校区の施設よりも広いスペースや調理室などの特定の設備が必要な施設については、小学校区に配置する施設を兼ねる形で、概ね中学校区への配置を考えています。



小学校区に配置する施設

●地域の皆さんが最も身近な場所で、地域の話合いなど、さまざまな地域活動に利用する地域コミュニティの活動拠点は、概ね小学校区の範囲への配置を考えています。



グループでの話し合いの様子



6 長崎市全体の公共施設の基本的な配置の考え方（つづき）

レクリエーション施設



●レクリエーション(余暇活動)は、日常生活における心身の疲れを癒し、活力を養うことができる重要なものであり、今後もその重要性は変化することがないため、余暇活動を行える場を提供し、市民の豊かな生活を支援します。



●市として設置するレクリエーション施設は、市民の豊かな生活を支援するため、世代を問わずだれもが利用できる場を長期的に継続していく必要があります。



いこいの里

公園

公園には、「防災や避難等災害に対応できる機能の確保」、「複合遊具等を活用した魅力的な子どもの遊び場の創出」、「スポーツ施設等での利用」、「健康づくりのための機能の導入」など、多様なニーズへの対応が求められています。

公園の種別と標準面積、利用目的

公園種別	標準面積
総合公園	利用目的に応じて適宜
運動公園	利用目的に応じて適宜
地区公園	4.0ha(40,000㎡)
近隣公園	2.0ha(20,000㎡)
街区公園	0.1ha(1,000㎡)



- 総合公園…都市住民全般の休息、鑑賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供する
- 運動公園…都市住民全般の主として運動の用に供する
- 地区公園…主として徒歩圏内に居住する者の利用に供する
- 近隣公園…主として近隣に居住する者の利用に供する
- 街区公園…主として街区内に居住する者の利用に供する



総合運動公園



小江原台近隣公園

市営住宅

●今後、人口や世帯数が減少し、市営住宅の需要は減ると予想されます。そのため、民間住宅市場で最低居住水準を確保できない低額所得者や、入居制限を受ける可能性がある高齢者や障害者、子育て世帯等の居住困窮度の高い世帯などの、真に救済すべき世帯の最低限の安全な暮らしを守る役割を担いながら、将来的には市全体の市営住宅の総戸数を減らしていく方針です。



小江原住宅



小江原第2住宅



小江原第3住宅



城山台住宅



公用施設



●コロナ禍の影響などにより生活様式が大きく変わり、コンビニでの住民票取得やスマートフォンを使っての電子納税など行政手続きも変化しているため、地域センターなどの施設についてのあり方や使い方についても考える必要があります。



式見地域センター 福田地域センター
西部地区事務所

★グループでの話し合いで出された主な意見

グループで話し合っていたいただいた内容について、班ごとに発表していただきました。

1班

- ・式見小学校は高台にあって安全面からいって少し心配である。車で行きづらくもあるため、子ども達を守っていくためにも式見中学校へ式見小学校を移したらどうか。
- ・式見地区ふれあいセンターは、町の中心にあって、平地であり高齢者も歩いて行くことができる立地条件がよい場所にあるため、建替えや補強をして現在の場所に残してほしい。
- ・式見地区には独居老人がいるため、老人憩の家式見荘は日曜や祝日に利用できるようにしてほしい。
- ・手熊地区ふれあいセンターは、エレベーターなどの設備がない。駐車場も少なく、学童は入っているが、機能が足りない。
- ・老人憩の家舞岳荘にはエレベーターがない。
- ・手熊地区ふれあいセンター、老人憩の家舞岳荘、福田地域センター西部地区事務所をまとめた施設があれば集約されていいんじゃないか。



2班

- ・桜が丘地区にも老人施設を設置してほしい。
- ・小江原地区ふれあいセンターへは坂があり行きにくいいため、コミュニティバスやタクシーを利用できるように市のほうで考えてほしい。
- ・福田地域センター西部地区事務所は、駐車場もあり、渋滞になることもないため、この地区の住民もよく利用している。
- ・小江原台近隣公園の使用については、地元優先にしてほしい。また、車で公園に来る人が、駐車禁止の場所に車を止めて公園を使用している。
- ・児童公園に児童の遊具と併せて老人向けの遊具を設置してほしい。



【講評】（アドバイザー：東京都立大学 都市環境学部 讃岐亮 先生）

●安全安心という切り口から、機能集約の可能性があるのでないかという意見がいただけたのはとても建設的だったと思います。行政の方たちは経営的な視点から提案するが、なかなか皆さんに受け入れてくれないのでないかという不安に駆られていて、そういう中でとても建設的な意見をいただけたというのが一つの成果だったと思いました。



●2班のディスカッションの中で印象的だったのは、コミュニティバスの話がありました。コミュニティバスを運行させるには、運営形態、運行形態や車の大きさ、誰が運転するのかなど多種多様なことを決めなければならず、どのくらいの経費が掛かるなどの問題もありますので、こういう機会を通じて皆さんに考えてもらえるといいと思います。

次回の対話では・・・

長崎市から**個別の公共施設の配置の考え方**をお示ししたうえで、その考え方に対して、地域にお住まいだからこそわかる実情などを踏まえた、ご意見やアイデア等をお聞かせいただきたいと思います。

第2回 日時：令和3年11月13日（土）15：00～17：00

場所：小江原地区ふれあいセンター 第1研修室

◆お問い合わせ：長崎市理財部資産経営室（☎直通：095-829-1412）